

vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

1

JANUARY
2011

CONTENTS

ニュー・イヤー・コンサート2011	1~2
最近の公演から	2~3
インフォメーション	4



写真上左:小菅 優 photo:Steffen Janicke
右:幸田浩子

写真下:ニュー・イヤー・コンサート2010より

新春を彩る、「ウィーン」で花開いた音楽の数々。

● 1/5(水) ニュー・イヤー・コンサート 2011 —ウィーン、わが夢の街—

新年の幕開けに、水戸芸術館専属楽団の名手と豪華ゲストによる音楽で、至福のひとつをお過ごしいただきたい—そんな想いととも、毎年趣向を凝らしてお届けしている「ニュー・イヤー・コンサート」。今年のテーマは「ウィーン、わが夢の街」です。

ウィーンは、ヨーロッパの東西の接点に位置する街です。それぞれ文化的にも言語的にも異なった人々が住み、また行き交う街でもあります。かつては神聖ローマ帝国の首都として、7世紀にもわたってハプスブルク家の支配の下、華やかな文化が栄えてきました。そして第1次世界大戦後に帝国が解体し、共和国の首都となり、今日に至ります。こうした移り変わりの中、音楽都市ウィーンの伝統は今でも街全体に豊かに息づいています。この街に長く住む人々の心の中には、この街への郷愁と愛情が滲んでいます。そしてこの古き都が抱く複雑なニュアンスと内懐の深さは格別です。それゆえに、他国の人々にとっては憧れの街でもあります。〈ウィーン、わが夢の街〉…この有名な歌も、そんなウィーンへの人々の想いの宝石のような結晶であると言えるでしょう。そして、私たちの2011年が夢と希望に溢れた年となることをねがって、「ニュー・イヤー・コンサート」では、皆様と共にウィーンを音楽で巡りたいと思います。

それではさっそく出演者をご紹介します。ヴァイオリンは、水戸室内管弦楽団 (MCO) や ATM アンサンブルでおなじみ、加藤知子、久保田巧、小林美恵、田中直子、中村静香、沼田園子。そして今回は、ニュー・イヤーには2年ぶり、豊嶋泰嗣も

登場します! ヴィオラは、MCOの川本嘉子、店村眞積。チェロは同じくMCOの堀了介と松波恵子。そしてコントラバスは、今年MCOにゲスト出演した若手奏者・谷口拓史。そしてクラリネットは、現在読売交響楽団の首席を務め、MCOではこれまで1995年、96年、2001年、02年の定期演奏会に出演し、この1月の第81回定期にも出演予定の四戸世紀。オルガンは、ニュー・イヤー3度目の登場となる高橋博子。ピアノは、毎年伴奏者として、ソリストとして、またアンサンブル奏者としても、絶大な信頼をえている野平一郎。さらに今回は、9月のソロリサイタルで大好評を博し、また12月にたちあげた新専属楽団・新ダヴィッド同盟のメンバーでもあるピアノの小菅 優も登場します。それからソプラノは、いま人気と実力をともに備えた幸田浩子を迎えます。名門ウィーン・フォルクスオーパーとも専属契約を結んでいた才媛が、ウィーンで生まれた歌の数々を魅力たっぷりに聴かせます。そして進行役を務めるのは、NHK茨城県域デジタル放送で活躍する若手キャスター・今野美由紀です。チケットはもう残りわずかになりましたので、お求めはお早目どうぞ!

そして今回、若き日にウィーンで学んだ水戸室内管弦楽団 (MCO) メンバーであり楽団員代表の堀 伝さんには、指揮だけでなくミュージカル・アドバイザーとしてもご協力いただいております。堀さんには、ウィーン留学時代の思い出や街の印象、今回の演奏会の聴きどころについてインタビューしました。〈高巣〉

■堀さんは、NHK交響楽団にコンサートマスターとして入団されてから、1967年に楽団から派遣されてウィーンに留学されました。当時、どのような生活を送られましたか?

1年間行っていたのですが、到着した9月にはもう枯れ葉が舞っていて薄暗く、ウィーンは華やかな「音楽の都」と言うけれど、初めのうちはよく分かりませんでした。でもまずはコンセルヴァトリウムに籍を置いて、レッスンを受けていました。そのうち「仕事するか?」と誘われ、ウィーン交響楽団でエキストラとして演奏することに。出番は毎回あって忙しかったのですが、数ヶ月たった頃に「実は旅行もしたいのですが」と、ある人に相談したら、「お前は病気になったということにするから、楽屋には顔出さな」と冗談半分に言われました(笑)。でもそれはそれで面白かったです。オーケストラってどこも同じような雰囲気があって、いろんな人間の集合だから変わった人もいれば面白い人もいます。N響にもこういう人いるな、ウィーンだから特別どうこうというわけではないなと思ったこともありますし。

■実際、初めて行かれた「音楽の都」はいかがでしたか?

街には、第2次世界大戦中にソ連軍と戦ったところや、銃弾の跡が建物に残っていたりしました。二軒目にお世話になった下宿では、赤いカーテンがあったのですが、それをよく見ると、ナチスのマークがありました。きっと染め直したのでしょうね。その人がナチ黨員かどうかは分かりませんが。そんなふうに戦争の跡がちらほら見えて、



堀 伝

「音楽の街」なんて、夢の世界みたいだと思ったこともあります。

それから僕は東京で育ったから、歩くスピードが速いのですが、ケルトナー通り（ウィーンで最も観光客が多い通り）を歩いていると、他の人の歩く速さが違って驚きました。少し急いで走ろうものなら「何かあったの」とみんな振りかえるような雰囲気です。でもだんだんそれに慣れていきました。時間の流れが本当にゆったりしていましたね。

■ウィーン留学時代の生活の中で、特に印象に残っていることをお聞かせください。

当時は他の国に行くにも国境を越えるのが今ほど簡単でなく、ある時チェコから東ドイツに入ってドレスデンに行こうと思って大使館に行ったら、その時は国交がないから難しく、なんとか数時間だけ滞在できたことがありました。ドレスデンは暗くて、いまオペラハウスは修復されていますが、その頃は瓦礫の山。そんな中、仲間とホテルで食事をしていたら一人の画学生が

近づいてきて、西のこと、ウィーンのこと、日本のこと、全部知りたがって僕らに聞いてきたのです、ただし小声で。まわりにスパイがいるかもしれないので。その時は「嫌な国だ」と思いましたし、ましてやあんな壁を作って…人間って恐ろしいと思いました。でも音楽については、東も西もなく、人がみな大切にしてきたものだという感を強くしました。

■堀さんにとって、「音楽の都 ウィーン」の魅力はどのようなところにありますか？

「音楽の街」と言いますが、ワルツやポルカを聴いていると、昔の華やかで賑わっている舞踏会などのイメージを持つことでしょうか。けれど歴史を見ると、シェーンベルクやウェーベルンがあの音楽を始めた時は、街の人も驚いたでしょうし、相当先を行っていますよね。でもそれがしっかりと根付いて、ウィーンのものになっている。当時は全く異質のものに思われたかもしれませんが、現代の我々から見れば、ウィーンには古いものも新しいものも受け入れるだけの大ら

かな包容力があって、それがこの街の面白さだと思います。

■今回のニュー・イヤー・コンサートの聴きどころについて、お聞かせください。

定期演奏会とは違って、様々なメンバーやゲストが魅力的な小品やアンサンブル曲を演奏して、こちらも皆さんと一緒に気軽に楽しみたいと思っていますので、お客様にとってもそうであれば願っています。特に今回は「ウィーン、わが夢の街」というテーマで、モーツァルトやシューベルトあり、ワルツやポルカあり、そして時代を下って、あの作曲家の作品もありというように、すべての音楽が一つのつながりの中にあるウィーンという街の懐の深さを感じられる内容になると思います。一人でも多くの方にお楽しみいただければ嬉しいです！

2010年11月17日、東京にて
《聞き手：高巢》

最近の公演から NOVEMBER



1



2

平松英子 & 野平一郎 シューマン歌曲の夕べ (11月6日)

シリーズ「ショパンとシューマン 夢と憧れの軌跡」の第3回として、ソプラノの平松英子さんとピアノの野平一郎さんが登場した。プログラムは「シューマン歌曲の夕べ」と題し、〈女の愛と生涯〉全曲のほか、〈ミルテの花〉、〈ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスター』にもとづくリートと歌〉、〈リーダークライス〉(作品39)といった歌曲集の中から抜粋して、シューマンのロマンティックな名歌が歌われた。シューマンの歌曲は、数あるドイツ・リートの中なかでも、とりわけ繊細微妙な心理表現をその特徴としていると言えるだろう。平松さんと野平さんは、その表現の綾を拡大して、身ぶりをともなってパフォーマンスしたわけではなかったで、その演奏はいく分とつきにくかったかも知れない。しかし、耳をすませば、平松さんと野平さんが、シューマンの音楽を原寸大のまま、限りなく豊かな階調をもって描きつくしていたのが聴きとれたらう。アンコール曲は、シューマン 〈ミルテの花〉から、「献呈」と「きみは花のよう」の2曲。《関根》

アンケートから●素晴らしいドイツ語、美しい音色に包まれ、とても優しい気持ちでいっぱいです。(無記名の方) ●奥深い母音の響きと繊細な子音の対比が素晴

らしかったです。(無記名の方) ●めったに聴くことができない平松さん、野平さんのリートの夕べでした。平松さんの声の美しさ、野平さんのピアノのすばらしさ、堪能いたしました。(東京都武蔵野市：A.M.さん) ●とても楽しめました。パンフレットの説明も良かったです。ピアノにも癒されました。(水戸市：Y.K.さん) ●〈女の愛と生涯〉——この年齢になって、しみじみと味わうことができました。(水戸市：E.I.さん)

ちょっとお昼にクラシック 波多野睦美&つのだたかし ～香り高きイギリス・リュートソングの世界～ (11月16日)

今回の「ちょっとお昼にクラシック」は、デュオとして国内外で活躍されている波多野睦美さん(メゾソプラノ)と、つのだたかしさん(リュート)をお迎えし、イギリスのリュートソングをお届けした。波多野さんが英語の歌詞の内容をお話したり、つのださんがリュートという楽器のルーツなどを親しみやすく紹介しながら、ダウランドやパーセルの歌、イギリスの古い民謡、リュートの独奏曲など、魅力的な作品の数々が奏でられた。

潤いのある澄んだ声で歌われる詩情豊かな歌と、繊細なニュアンスでそれを彩るリュートの絶妙なアンサ

1~2.平松英子(ソプラノ) & 野平一郎(ピアノ) シューマン歌曲の夕べ



1



2



3



4



5



6



7



8

ンプルは、舞台と客席が近いこのホールの親密な雰囲気にもびったりで、改めて、時を越えて人の心に響く歌の力を強く感じた午後のひとときだった。アンコール曲は、イギリス民謡〈恋人に林檎をあげる〉と、團伊玖磨〈花の街〉。《高巢》

アンケートから●波多野さんの透き通った声、リュートの響き… 遠いイギリスへ想いを馳せながら、優しい時間が流れました。アンコールの〈花の街〉で涙があふれそうでした。(東海村：Y.N.さん)●波多野さんの声を聴きたいと10年くらい思っていました。本当に今日は嬉しいです。素晴らしくて声も出ませんでした。(無記名の方)●連日多忙をきわめ、疲れきっていた今日、はたと自分の誕生日だと気づき、私へのプレゼントに!なんて癒されたでしょう。声が心にしみてきて、リュートが優しい気持ちにさせてくれました。(M.O.さん)●何年も生の演奏を聴きたいと思っていました。「サリー・ガーデン」でショックを受け、CDを見つけるたびに購入していました。念願が叶ってうれしいです。(つくば市:A.I.さん)●詩がメロディになって立ちのぼってくる波多野さんの歌が大好きです。耳を澄ませなくなるつのださんのリュートの大ファンでもあります。お二人を前にして、ほんとにいい午後を過ごせました。(横浜市：R.M.さん)

井上 修 ピアノ・リサイタル (11月21日)

いつもユニークな選曲センスが光るピアニスト・井上 修さんによる、水戸芸術館3度目のリサイタル。今回は、今年生誕200年を迎えたショパンが、パデレフスキ、シマノフスキという同郷の作曲家と共に並べられ、全体としてポーランド音楽の情趣に満ちた聴きごたえあるプログラムとなった。前半最後、シマノフスキによる〈ポーランドの主題による変奏曲〉では、民謡を主題にした10の変奏曲が、生き生きと表情豊かに演奏され、聴く機会の少ないこの作品の魅力を発見できた方も多いのではないと思う。また後半、ショパンのマズルカ、ノクターン、そして〈アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ〉では、ショパンが抱いていた祖国への郷愁に想いを馳せなくなる、繊細かつダイナミックな演奏が披露された。

アンコールでは、井上さんが、今はなき恩師へ祈りを込めて、J.S.バッハ(ブゾニ編曲)の〈無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番〉より「シャコンヌ」、そしてバダジェフスカの〈乙女の祈り〉を演奏し、会場に温かな時間が流れた。《高巢》

アンケートから●すてきな音色ありがとうございます。特にアンコールでのトークと曲が素晴らしいかったです。(無記名の方)●音響が大変良く、引き込まれました。素晴らしい演奏ありがとうございます。(石岡市:Y.G.さん)●シマノフスキ… ダイナミックさや、数々の音色が素敵でした。全曲心に響きました。アンコール曲、報見感謝の想いが伝わり、涙が…。次のリサイタル、首を長くして待っています。(A.O.さん)●久しぶりに井上先生の演奏を聴けて嬉しかったです。先生のピアノは本当に癒されるし、心に響きます。素敵な時間をありがとうございました。(A.O.さん)

コール・ヴィステリー 第1回演奏会 (11月22日)

コール・ヴィステリーの記念すべき第1回演奏会。

同合唱団は、茨城県立水戸第二高等学校コーラス部のOGによって2005年に結成。メンバーが水戸二高在学中にコーラス部の顧問であった齋藤由美子さんが指揮者を務めている。この合唱団の魅力は、メンバー全員が、このアンサンブルそれ自身とそこで生み出される音楽に向けて、若さ溢れる情熱と愛情を尽きることなく注いでいるところではないかと感じた。その明るさ、躍動感の源は、指揮の齋藤さんに依るところが大きい。その指揮は、どこまでもメンバーに開かれたものであり、齋藤さんは、皆の意見や個性を可能な限り生かしながら音楽を作り上げようとしているように思えた。今回の演奏会は、当館の「幼児のためのオルガン見学会」の講師などを務める浅井美紀さんのオルガン伴奏で、エントランスホールで開催された。プログラムはドイツのラインベルガーとリトアニアのミシュキニスによる宗教曲を骨格として、現代的な音響をもつエストニアのトルミス作品、さらにJ.S.バッハとデュリュフレのオルガン・ソロ作品などから構成された。アンコールは「木下牧子:おんがく」と「アダン:オー・ホーリー・ナイト」《中村》

アンケートから●オルガンもよかった。コーラスも素晴らしいかったです。私もまたこのくらい歌えたらな。(水戸市:K.K.さん)●パイプオルガンの音が、久しぶりに聴けたので良かったです。(無記名の方)●教会のような音響をもつホールで行われた、心洗われるコンサートでした。(無記名の方)

茨城の名手・名歌手たち 第21回 (11月27日)

水戸芸術館が開館(1990年)以来毎年継続してお届けしている「茨城の名手・名歌手たち」。第21回目の今年は、鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブルの各部門を対象として、6月にオーディションを行いました。その厳しいオーディションをへて、今年は見事9名の演奏家が選ばれました(ピアノ:小澤叶恵さん、須田茉莉さん、藤原百子さん、澤田尚美さん、掛札佳奈さん、忠 紗友里さん、パイプオルガン:石原麻衣さん、ヴァイオリン:石坂淑恵さん、茂木立真紀さん)。この度の司会は、審査委員も務めた東京芸術大学名誉教授の小林 仁先生。当日行われたリハーサルで、小林先生は演奏家としてのご自身の豊富な経験にもとづくアドバイスを、客席や、時にはステージ上で、積極的に伝えていらっしゃいました。また出演者の皆さんはそれを真摯に受けとめながら、最後の最後まで演奏に磨きをかけ、本番ではそれぞれに個性的で若々しい熱演を繰り広げてくれました。名手の皆さんが、この舞台から世界に向けてさらに飛躍されることを、スタッフ一同心から願っております!《高巢》

アンケートから●オーディションも聴かせていただきました。合格された方々が、今日どんな演奏を聴かせてくれるのか楽しみにしていました。皆さんとても素晴らしく、良いコンサートでした。(ひたちなか市:A.T.さん)●ショパンなど聴き慣れた曲でなかったのが難しかったのですが、それだけに各演奏者の力量を感じました。今後の活躍を期待します。(水戸市:K.A.さん)●心臓のドキドキが客席まで聞こえてきそうな緊張感の中での演奏は独特の魅力がありますね。(無記名の方)

1~2. ちょっとお昼にクラシック 波多野睦美 & つのだたかし ~香り高きイギリス・リュートソングの世界~
3~4. 井上 修 ピアノ・リサイタル
5~6. コール・ヴィステリー 第1回演奏会
7~8. 茨城の名手・名歌手たち 第21回

information

■ チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000

営業時間/9:30～18:00(月曜休館)

■ 公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

■ 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

● ツイッター開設のお知らせ ●

水戸芸術館音楽部門のスタッフによるツイッターを開設しています。
皆様のフォローをお待ちしております。

http://twitter.com/ConcertHall_ATM

チケット・インフォメーション

〈12月18日(土)発売分〉

◎兼氏規雄 クラリネット・リサイタル

3/6(日)14:00開演

料金(全席自由):一般¥2,000 学生¥1,500

◎小川 遥 ピアノ・リサイタル

3/12(土)15:00開演

料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

◎水戸うらら女声合唱団 ～35周年記念演奏会～

3/27(日)14:00開演 料金(全席自由):¥1,500

〈1月9日(日)発売〉

◎合唱セミナー 講師:新実徳英

2/27(日)10:00開始

料金(全席自由):一般¥1,500・高校生¥1,000・中学生以下¥800

◎ちょっとお昼にクラシック

上村 昇(チェロ) & 迫 昭嘉(ピアノ)

—魅惑のデュオがお届けする、優雅な午後のひととき—

3/9(水)13:30開演

料金(全席指定):¥1,200(1ドリンク付き)

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右・裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎ニュー・イヤール・コンサート2011

～ウィーン、わが夢の街～ …… 1/5(水)中央×、左右・裏×、補助△

◎ちょっとお昼にクラシック

竹原美歌 & ルードヴィッグ・ニルソン… 2/10(木)中央○、左右・裏○

◎ヒラリー・ハーン

ヴァイオリン・リサイタル…… 3/26(土)中央×、左右・裏○

※12/8(水)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンター
でお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ち
ください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予め
お問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な1月のスケジュール

コンサートホールATM

■ニュー・イヤール・コンサート2011 ～ウィーン、わが夢の街～

1/5(水)18:00開演

料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000

■水戸室内管弦楽団 第81回定期演奏会

1/29(土)18:30開演

1/30(日)14:00開演

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

1月:15日(土)、16日(日)

開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料

※演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

■『ライフ・イン・ザ・シアター』

1/28(金)19:00開演、29日(土)16:00開演、30日(日)14:00開演

2/4(金)19:00開演、5日(土)16:00開演、6日(日)14:00開演

料金:一般¥2,500 学生¥1,800

現代美術センター

■大友良英「アンサンブルズ2010——共振」

11/30(火)～2011年1/16(日)

9:30～18:00 ※入場は17:30まで

休館日:月曜日

※2011年1/10(月・祝)は開館、翌1/11(火)休館

入場料:一般800円、団体(20名以上)600円

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方
1名は無料

茨城の主な1月の演奏会 ※有料公演のみ

◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166

■上松美香 アルパコンサート

1/29(土)14:00開演

◆日立シビックセンター TEL/0294(24)7720

■第15回 ニューイヤールオペラコンサート

1/16(日)14:00開演

◆つくばカピオ TEL/029(851)2886

■日本の童謡・唱歌・歌曲51曲選集

作詞・作曲にまつわる小さなエピソード付 発刊記念コンサート

1/15(土)14:30開演

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」 2010年12月発行 第154号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):伊東慶子 大金絢子 関根哲也 高巢真樹 中村晃

DTP/村田征司 [株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…
復活のお祝いです!!